

学燈 gakutou

【第19号】



「教職大学院7年目を迎えて」

教職実践高度化専攻 専攻長 佐々木 司

今年で本学の教職大学院も7年目を迎えました。光陰矢の如し。月日の経つ早さを感じるとともに、この間の教職大学院の成長に喜び、また自身の到らぬ点を思うこの頃です。

「誕生」から7年といえは、人間なら自主、自律、規範意識の精神をもって、社会の形成に参画し、その発展に寄与することが期待され始める、そんな時期です。おかげさまで本教職大学院はこの間、有意な人材を、山口県を中心に多数輩出することができました。これも学生諸君の努力はもちろんのこと、関係者の皆様のご支援の賜であると心より感謝しております。

ところで、みなさんは「七歳までは神のうち」という言葉をご存じでしょうか。医療・衛生状況がよくなかった時代、乳幼児の死亡率は今とは比べものにならないほど高いものでした。七歳までに子どもが亡くなった場合には、「神様が姿形を子どもに変えて私たちのもとに降りて来てくださったのだ」。他説もあるようですが、このように考えたわけです。小さな子どもにとって生育環境が厳しいがゆえの「合理化」です。そして、このような言葉が伝わってきた背景には、だからこそ、子どもの成長を心から喜びたいという親の気持ちを汲み取ることができます。本来「七五三」も、そのような意味が込められたお祝いなのでしょう。

「子ども」といえば、5月5日は「こどもの日」でした。ご承知のように、「こどもの日」は国民の祝日です。子どもの成長を祝う日。確かにそうなのですが、「国民の祝日に関する法律」には、その「内容」が次のように定められています。「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。」ところがどうでしょう。母に感謝するという部分については、ほとんどの国民が知らないし、知らされてもない。学校やマスコミは、ほぼ伝えていないように思います。「こどもの日」の数日後にアメリカ由来の「母の日」があり、商業主義の影響を受けてもいるからでしょうが、個人的には少し残念です。

「七歳」が乳幼児期の生育危機をひとまずは脱する区切りであったとしても、教職大学院にとっての「7年目」は、けっして安心できない年、むしろ今まで以上に気を引き締めて進んでいかねばいけない年になると思います。そのためには、大学院生、担当教員の大きな力が必要です。教職大学院のさらなる成長、発展のためにみなさんが参画していくことを期待しています。ともに成長してまいりましょう。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「教職大学院・学校経営コース 今年度のスタートにあたって」

 学校経営コース長 静屋 智

山口大学教職大学院がスタートして7年目を迎えています。5期生が2年間を修了して来年度には教職大学院として2回目の認証評価を受ける現在が、コースとしての取組を再点検・再構成することの意味を確認する時でもあります。学校経営コースのめざすものは、これからの山口県それぞれの地域での教育をリードし支えていく人材を確実に育成していくことです。山口大学教職大学院の強みである山口県教育委員会・各市町教育委員会との強い連携、特に人材育成戦略や組織マネジメント戦略の共有を中核において、取組の質の向上を継続し成果を確認していきたいと考えます。

これまでの学校経営コースとしての取組の中で、「これからの学校のあるべき姿・めざす方向性」を意識しながら、「なぜそうするのか、何のためにするのか」「何を成果ととらえるべきなのか、そのために何を確認すべきか」等について省察を繰り返すことが大切だと伝えてきました。これまでのそれぞれの学校や県内各地域での取組の成果を分析し、それを踏まえた再構成が継続的に求められます。教職大学院での授業やコースとしての様々な取組、原籍校での学校実習やフィールドワーク等での取組において、本質は何かを意識して再構成の全体構造をとらえてほしいと考えます。また、児童生徒に対しても教職員に対しても同様ですが、「自分ごと・自分たちごと」として取組をマネジメントし、「プラスをつくり続ける」姿勢を発信してほしいと思います。

「啐啄の機」～理論と実践の融合した教員を目指して～

 教育実践開発コース長 和泉 研二

「啐啄の機」または「啐啄同時」とは、禪で重視される考えです。「啐」とは、鶏の卵からヒナが産まれるとき、ヒナが外に出ようとして卵の殻を中からつつく音、「啄」とは「啐」を聞いた親鳥が機を逃さず外から殻を破る手助けをすることです。「啐」と「啄」が同時に相まって、はじめてヒナは殻を破り産まれることができるという意味です。

子どもの成長と教師との関係もこれに似ています。壁にぶち当たり、それを乗り越えようとしている子どもを、まさにそのときに適切に支援することこそが、教師がその本領を発揮する場と言えるのではないのでしょうか。授業や休み時間での子どもの発言や行動に、教育者として敏感に反応でき、それまでに学んだ理論と実践から瞬時にそれらに特別の意味や価値を見出し、自信を持って適切な授業展開や生徒指導を行っていく。そのような瞬間は、「理論と実践の融合」した教員の「啐啄の機」と言えるのではないのでしょうか。

教育にはゴールも完成もなく、どのように未完成であるかが問われ続けられます。いかに「理論と実践の融合」を積み重ねても、理論の浅はかさや実践力の足りなさを痛感することを繰り返します。「理論と実践の融合」というのは教員としての永遠の課題です。だからこそ、さらに理論を学び、実践によって自己を磨き続ける必要があります。そのスタートとして教職大学院での学びが皆さんにとって有意義なものになることを期待します。

「みんなで学び会う特別支援教育コース」

特別支援教育コース長 松岡 勝彦

ご入学誠にありがとうございます。山口大学教職大学院特別支援教育コースは4回目の入学式を迎えました。当コースは、1・2年生をあわせて5名となりました（現職教員の大学院生2名、ストレートマスターの大学院生3名）。当コースの設置目的は、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の実態に即した効果的かつ効率的な指導力、関係者とのコーディネーション能力等を備えた地域や学校をリードできる人材を育成することです。この目的を実現するため、理論（大学における講義・演習）と実践（学校実習等の教育実践）を往還するプログラムを取り入れています。大学における講義・演習では、現職教員の大学院生とストレートマスターの大学院生がともに参加し、学ぶことができるので、現職教員にとっては、ストレートマスターの持つ最新の知見、実証的研究方法等について知ることができ、ストレートマスターにとっては、現職教員の持つ教育現場におけるさまざまな情報を吸収することができます。現職教員とストレートマスターからなる大学院生から、われわれ大学教員も多くの刺激を受け、教育・研究・地域連携に努めたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【令和4年度 山口大学教職大学院専任教員一覧】

コース	氏名	担当科目
学校経営	坂本 哲彦	「学校組織マネジメント探求」「道徳教育の理論と実践」他
	佐々木 司	「学校関係法令の適用と課題」「学校評価と学校改善」「学校経営と組織開発」「教育の制度と政策」他
	静屋 智	「カリキュラム開発の理論と実践」「学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践」「教育行財政の制度と課題」他
	霜川 正幸	「山口県教育の現状と課題」「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践」「現代的課題と授業改善の実践」他
	時乗 順一郎	「学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践」「学校経営と組織開発」「教育行政インターンシップ」他
	松田 靖	「生徒指導の実践と課題」「学校関係法令の適用と課題」「学校評価と学校改善」「教育行財政の制度と課題」他
	岡田 淳子	「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践」他

教育実践 開発	青木 健	「体育科教育指導法特論」「保健体育科教育内容構成特論」 他
	足立 直之	「生徒指導の実践と課題」「学級経営開発基礎」「教職員研 修開発実践演習」他
	阿濱 茂樹	「技術科教育指導法特論」「情報科教育指導法特論」「知識 基盤社会における情報活用の理論と実践」他
	上地 広昭	「保健体育科教育内容構成特論」他
	岡村 吉永	「技術科教育指導法特論」「技術科教育指導法演習」「技術 科教育内容構成特論」他
	川崎 徳子	「子ども理解に基づく教育の理論と実践」他
	岸本 憲一良	「国語科教育指導法特論」「国語科教育指導法演習」「国語 科教育内容構成特論」他
	栗田 克弘	「教科カリキュラム開発, 授業デザインと評価」「理科教育 指導法特論」「理科教育内容構成特論」他
	佐伯 英人	「理科教育指導法特論」「理科教育指導法演習」「理科教育 内容構成特論」他
	斉藤 雅記	「体育科教育指導法特論」「体育科教育指導法演習」「保健 体育科教育内容構成特論」他
	重松 宏武	「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	生島 亜樹子	「教職総合実践Ⅰ」「教職高度化実践研究Ⅰ」他
	白石 敏行	「子どもの発達と教育の課題」他
	鷹岡 亮	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践」「情報科 教育指導法演習」「情報科教育内容構成特論」他
	高橋 俊章	「英語科教育指導法特論」「英語科教育指導法演習」「英語 科教育内容構成特論」他
田本 正一	「社会科・公民教育指導法特論」「社会科教育内容構成特論 (公民領域)」「社会科・公民教育指導法演習」他	

	西 敦子	「家庭科教育指導法特論」「家庭科教育内容構成特論」「家庭科教育指導法演習」他
	西尾 幸一郎	「家庭科教育内容構成特論」他
	猫田 和明	「英語科教育指導法特論」「英語科教育指導法演習」「英語科教育内容構成特論」他
	坂東 智子	「国語科教育指導法特論」「国語科教育内容構成特論」他
	藤上 真弓	「キャリア教育実践演習」「学級経営の理論と実践」「特別活動の実践と課題」「教職員研修開発実践演習」他
	星野 裕之	「家庭科教育内容構成特論」他
	前田 昌平	「教科カリキュラム開発, 授業デザインと評価」「授業技術の理論と実践」他
	森下 徹	「社会科教育内容構成特論(地理歴史領域)」「社会科・地理歴史教育指導法演習」他
	吉田 貴富	「美術教育指導法特論」「美術教育指導法演習」「美術教育内容構成特論」他
	和泉 研二	「山口県教育の現状と課題」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
特別支援教育	嬉 真里子	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育における教育実践の方法」「行動問題解決支援演習」他
	須藤 邦彦	「特別支援教育における教育実践の方法」「行動問題解決支援論」「特別支援教育コーディネーター校内実践論」他
	松岡 勝彦	「特別支援教育コーディネーター校内実践論」「行動問題解決支援演習」「特別支援教育実践ケーススタディ」他
	宮木 秀雄	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育開発演習」「特別支援教育モデルケーススタディ」他
	柳澤 亜希子	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育における教育実践の方法」他

「教職大学院に入学して」❀

《学校経営コース MI（現職）》

「教職大学院に通って何が一番変わりましたか」という質問を頂きますが、ずばりその答えは、「学校に対する視野が広がった」です。山口大学教職大学院では、幅広い専門領域を持ち学校現場にも精通した教授と多様な実践経験を持つ教授の両方から目からうろこが落ちる話を聞くことができます。さらに、「組織マネジメント」や「教育行政」「現代教育学」など、幅広い学びを存分に堪能することができます。これらが学校に対する視野を広げる要因になっていると思います。学校に対する視野が広がることで、新たな方策を試みたくなり、ワクワクした気持ちになります。



教職大学院での学びは、学校現場での「？」の解消にも役立ちます。例えば、いじめ事案の場合、保護者に対して加害児童生徒の出席停止を命じることができる法令があるにもかかわらず、実際にはなかなか実施されていない実情について「どうしてだろうか」と疑問を持つことがありました。しかし、教職大学院でのある講義を通して、疑問が解消されました。このように、教職大学院での学びを通して学校現場の「？」が「解消」「納得」「合点」に変わることがあります。

教職大学院での学びは、学校に居ながらも知ることができなかった新しい学校を知ることができるまたとない機会と思います。また、2年間の学びを一人でも多くの方に伝えられるように心掛けたいと考えています。

●学校経営コース ある日の過ごし方

8:40	10:20	11:50	12:50	14:30	16:10	17:40
1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限		
講義	講義	昼食	院生同士で講義の復習	大学内の図書館でレポートの作成	院生同士で課題研究の情報交換	

教職大学院では、一つ一つのテーマにじっくりと向き合うことができます。

《教育実践開発コース MI（ストマス）》

教職大学院に入学し、1ヶ月が経ちました。教職大学院では大きく分けて2つの学びの場が用意されています。

1つ目は、学校実習での実践の場です。その中で現場の先生方の考え方や子どもが普段どのようなことを考えているのか、机上ではわからないことを学ぶことができます。また、実習校で実地授業を行うことで、授業の有用性を確かめることができるとともに、多くの先生方からアドバイスをいただき、授業力を上げることができます。



2つ目は、様々な専門性を育むための授業の場です。授業作りや生徒指導など学校現場で大切なことを学習することができます。院生同士で話し合い、答えを探求するため、理論的で対話的な授業になっています。そして実習校でこれらを実践するため、理論と実践の往還を常に意識することができます。

今後も、学び続ける姿勢を大切に、仲間と切磋琢磨しながら成長し続ける教員になれるように努力していきたいと思います。

《特別支援教育コース MI（現職）》

チャンスに恵まれた教職大学院の生活は、3日間、圧倒され、情報の波にのまれないように必死だったオリエンテーションで始まり、自主的・自発的にお互いに学んでいくことの大切さが詰まっていた内容を感じながらスタートしました。

今年度、特別支援教育コースに入学したのは1人だけです。不安いっぱいの中過ごしていますが、4名の先輩院生に支えられながら歩みを進めています。

授業では、1人で受けることが多いのですが、疑問に思ったことや分かっていないことをすぐに聞ける利点があります。この利点を生かして、充実した日々の中でこれまでの実践の振り返りや専門的な知識習得を確実に学びを深めていこうと考えています。教職大学院で学んだ知識を原籍校に戻って実践する往還が充実できるように努力をしていこうと思っています。



教職大学院の他のコースの院生と情報交換や意見交換をする中では、自分に足りないものの発見や発想の転換など多面的に学べる機会もあります。学べることの素晴らしさを感じながら、様々な課題に立ち向かい、解決に向けて一步一步確実に歩んでいきたいと思っています。

学びと多面的に物事を捉える視点を養う機会に恵まれている環境に身を置かせていただいている感謝と実感を忘れず、一步一步成長をし、支えてくださっている方々に還元できるように日々過ごしていきたいです。

【教職大学院の特徴ある取り組み】

《学校経営コース M2（現職）》

○学校経営コースの実習校での過ごし方

【ある日の学校実習の1日】

8：10～ 9：30	市総合政策部広報戦略課との協働授業企画書作成・印刷
10：00～11：20	広報戦略課訪問 ～『シティ・プロモーション』×総合的な学習の時間の協働授業の企画提案～
13：00～15：00	中学校区地域学校協働本部の組織づくりについてコーディネーターと協議
15：20～ 放課後	令和4年度第1回学校運営協議会に向けて資料準備

実践研究のキーワード『協働』を突き詰め、大学院での学びを還元するために、原籍中学校区のある地域だけでなく市役所などの様々な組織とつながりながら、教育活動の質を高めるべく奔走した1日の様子です。「人が人を呼んでくる。つながるために動こう。」「できないは理由にならない。やりようはいくらでもある。」そんな視点と気概をもって学校実習に日々臨んでいます。

○学校実習での学び～「観」を鍛え、磨く～

教師がその専門性を高めていくために必要な観察力と言え、子ども観、教材観、指導観が真っ先に挙げられます。これらの3つの「観」を駆使して、私たち教師は子ども達と学びの実感のある授業を実現するために、日々励んでいるわけですが、学校経営コースで求められる「観」は立ち位置も、観る範囲も、その解像度も次元の高いものです。私たち現職大学院生は、学校実習期間を中心に地域課題の解決のために原籍校中学校区ないし市町全体に対して働きかけていきます。その際、原籍校の一員としての内向きな「観」に囚われていると地域の課題解決はできません。ですから、外向きの「観」を鍛え、磨いていかなければなりません。原籍校中学校区はもちろん、市町の学校教育全体を俯瞰し、変化・進化を促す着火点をいち早く見つけ出せる学校管理職や指導主事が備えておくべき「観」が必要なのです。大学院での学びを学校実習での実践に活かす「理論と実践の往還」を絶えず繰り返しながら「観」を磨いていく。これが学校実習の本質的な意義と価値であると考えています。

○実習校の校長から

学校はともすると「ゴールを目指すはすが、ボールばかり追いかけている」つまり「木を見て森を見ず」の状況になりがちです。学校課題及び地域課題の解決のため、幅広い観点から教職員に熱心に働きかける現職大学院生は、若手教職員の多い本校にとっては重要な羅針盤的存在です。

今後は、すべての教職員が、次年度以降も、これまでの協働実践を生かしてマネジメント力を発揮できるよう道筋を作り、対話と納得を大切にされた学校実習を進められることを期待しています。

「教育実践開発コース M2 (ストマス)」

1) 実習校での過ごし方

曜日にもよりますが、授業実践をさせてもらうこともあります。私は主に外国語活動を授業でさせてもらうので、この時間に授業準備やALTの先生とその日の打ち合わせや話し合いを行います。

主に授業をさせてもらえる学年は第三学年と第四学年です。ありがたいことに毎週のように授業実践をさせていただいています。学級も合計六つあるので一日に三時間ほど授業実践をさせてもらいます。多くの児童とともに学びを深められるよう切磋琢磨しています。

児童と一緒に遊んでいます。児童や学校の先生方に負けなくらい全力で走っています。体力がないので、体力づくりに努めねばと思っています。

曜日にもよりますが、先生方と相談した上で学習補助として授業に入らせていただいたり、他学年の授業を見学させてもらったりしています。主に第四学年の授業へ入らせてもらっています。他には授業実践を終えてALTと授業のふりかえりを行い、今後の課題や良かった所などを話し合っています。

8:05	学校出勤
8:10	朝の会
8:25	1時間目：授業準備
9:15	2時間目：授業実践
10:15	3時間目：授業実践
11:05	4時間目：授業実践
12:00	給食
12:30	昼休み・休憩時間
13:15	5時間目：学習補助
14:05	6時間目：学習補助
15:00	児童下校

下校後、メンターの先生や授業実践に関わってくださった先生方とその日の授業実践について意見をいただきます。

2) 学校実習を通して学んだこと

私は非常に多くの授業をさせていただき、授業実践後にたくさんの先生方の意見を伺うことができます。毎週のように先生にご指導いただき、お話をしながら児童の実態をもとに次の授業実践を組み立てていきます。出前授業のような飛び込み型ではなく児童の実態に沿って授業実践をさせていただけるのは貴重です。今年度も一年を通して多くの児童の成長に関わらせていただけるため、児童にもっともっと外国語を好きになってもらえるような児童に沿った授業づくりに努めたいです。

(実習校メンターよりコメント)

年間を通して毎週2日学校に来てくださるので、担任のように児童の成長を見ながら授業づくりに参加していただきます。児童のためにできることを真剣に考え、積極的に実践し、振り返りながら児童とともに成長していく姿は、実習生というよりも即戦力として活躍されています。笑顔で児童にも教師にも全力でぶつかっていける方が現場に入ってくださいと、クラスや授業に活気が生まれ、児童の笑顔も増えるので担任としてもありがたい限りです。

「特別支援教育コース M2 (ストマス)」

1) 実習校での過ごし方

9時ごろにかけて児童が登校してきます。教室で荷物の片付けや着替え、当番の仕事など児童の実態やその日の調子を観察しながら支援します。

個別課題に取り組む時間です。この2時間目や3時間目に実地授業をさせてもらうこともあります。2時間目は主に国語や算数の教科の学習をしています。

先生方と相談した上でT2として授業に入らせていただいたり、他学部へ授業を参観させていただいたりしています。

感染予防対策として実習生は職員室で食べています。給食が終われば、片付けや歯磨きの指導補助に入ります。

児童と一緒に遊んでいます。前年度は毎週水曜日に体育館が使用できたため、児童とボール遊びやトランプゲームをして過ごしていました。

自立活動では、児童の興味関心に合わせた学習をしており、大学や近くの公園等に行くこともあります。先生方と相談した上で、T2として授業に入った、課題研究に取り組んだりしています。

また、実地授業の打ち合わせや授業後の指導をいただく時間になるときもあります。

7:50	学校出勤
8:10	職員朝礼
8:40	児童登校 1時間目：日常生活の指導
9:25	2時間目：個別・自立活動
10:20	3時間目：生活単元学習 (実習日の場合)
11:15	4時間目：図工 (実習日の場合)
12:00	給食
	昼休み・休憩時間
13:35	5時間目：自立活動
14:20	6時間目：自立活動
15:15	児童下校

下校後、その日の児童の様子や出来事について先生方と共有しています。気づきや疑問を感じたことなどはこの時間を使って、話をするようにしています。

2) 学校実習を通して学んだこと

特にこの1年で学んだことは「指導しようとしていることの妥当性を検討する」ことです。指導していることが、子どもではなく教員にとって望ましい行動になってしまっていないか、その児童の生活に本当に生きる力であるか、指導することの責任をもってよく考え、指導しなければならないと再認識しました。また、実習校では多くの実地授業場面や指導時間を設けていただいています。加えて中学部や高等部への他学部の授業参観や学校運営協議会の聴講、研究授業や校外学習への参加など様々な機会もいただいています。今年度は表には見えないような学校や先生方の業務についてさらに学び、来年度から即戦力として現場で活躍できるよう学校実習に取り組んでいきたいです。

(実習校メンターよりコメント)

年間を通じての実習ですので、行事や季節にちなんだ学びの場等、「リアルな学校」を体験していただいています。好奇心旺盛で、子どもたちや本校教員に密着することをとおして、子どもたちに対する関わり方や授業をつくりあげていくプロセス等、様々なことに興味をもち、自らの学びにつなげ体得しようという、情熱と熱意があふれている方です。大学で学ばれた知識と本校での実践を往還されることで、本校教員の学びのひろがりにもつながっていると思います。今年度は、見たり聞いたり想像したりしたことを、言語化、文章化することで、学びの整理をしながら、子どもたちの教育について一緒に考えていきたいと思っています。

【アンケートのお願い】



学燈を最後までご覧いただきありがとうございます。

学燈を見て頂いた方に、web アンケートを実施しております。

このアンケートの目的及び取得した情報の取り扱いは、以下の通りです。

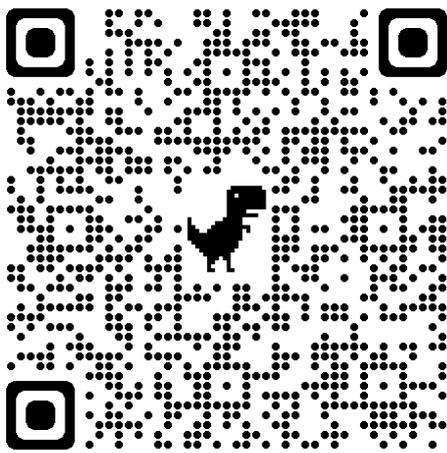
【目的】

- どのような方がどのような目的で学燈を見ているかという実態を把握すること。
- 今後の学燈について、内容の充実や読みやすさの改善を図ること。

【取得した情報の扱い】

- ご記入いただいた個人情報やご意見は、上記の目的のみに使用します。

アンケートにご協力いただける方は、以下の QR コードからアンケートへお答えいただきますようお願い申し上げます。



お持ちのスマートフォンからQRコードを読み取ってご回答いただけます。

下記URLからもご回答いただけます

リンク先の URL

<https://forms.gle/vUjQv9W8oUfMGmEG8>



ご協力ありがとうございました。

次号以降の学燈もぜひご覧ください

令和4年度

山口大学教職大学院 オンデマンド説明会

教職大学院HP



全3コースに関する説明を「いつでも」「どこでも」開催します。関心のある方は、まずご連絡ください。



学校経営
コース

現職教員



教育実践開発
コース

学部卒生



特別支援教育
コース

現職教員
学部卒生

未来のために、ここで2年間という特別な時間を
費やすと決めた38人の教育への熱い情熱の理由……

数年後の
教育、学校、地域のために、
志を胸に、「今」深く学ぶ。



<お問い合わせ先>

- ・ 学校経営コース 梶山 慎也 b003mmv(a)yamaguchi-u.ac.jp
 - ・ 教育実践開発コース 田村 香輝 b004mnv(a)yamaguchi-u.ac.jp
 - ・ 特別支援教育コース 吉田 奈々子 b004mpv(a)yamaguchi-u.ac.jp
 - ・ 全コース共通 佐々木 司 tsasaki(a)yamaguchi-u.ac.jp
- (a)の部分を@に変更してください。

◆教育学部A棟A305、222(院生控室)でも受け付けています。



山口大学大学院教育学研究科
専門職学位課程(教職大学院)教職実践高度化専攻